

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	EBV 関連 NK 細胞性腫瘍におけるスーパーエンハンサーの解析 / Dissection of super enhancers in EBV-associated T- and NK-cell lymphoma/lymphoproliferative diseases
研究開発機関	名古屋大学 大学院医学系研究科
研究開発代表者	佐藤 好隆
研究期間	令和 1 年 9 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

強み：

- CAEBV 患者由来細胞株を用いて、EBV スーパーエンハンサー、EBV 高次構造との関連性を示したことは評価できる。当初計画に沿って着実に成果をあげており、今後の発展も期待できる。
- 東アジアに多い EBV 感染性疾患への対策として重要な研究である。共同研究論文も高く評価できる。
- 本事業の日米医学協力計画の観点でも高く評価でき、今後の発展が期待される。
- 関連論文発表、学会発表も活発に行われている。

弱み：

- 治療法の開発に繋ぐためには、CAEBV 臨床例での EBV スーパーエンハンサーや高次構造の確認が必要である。